KOBELCO

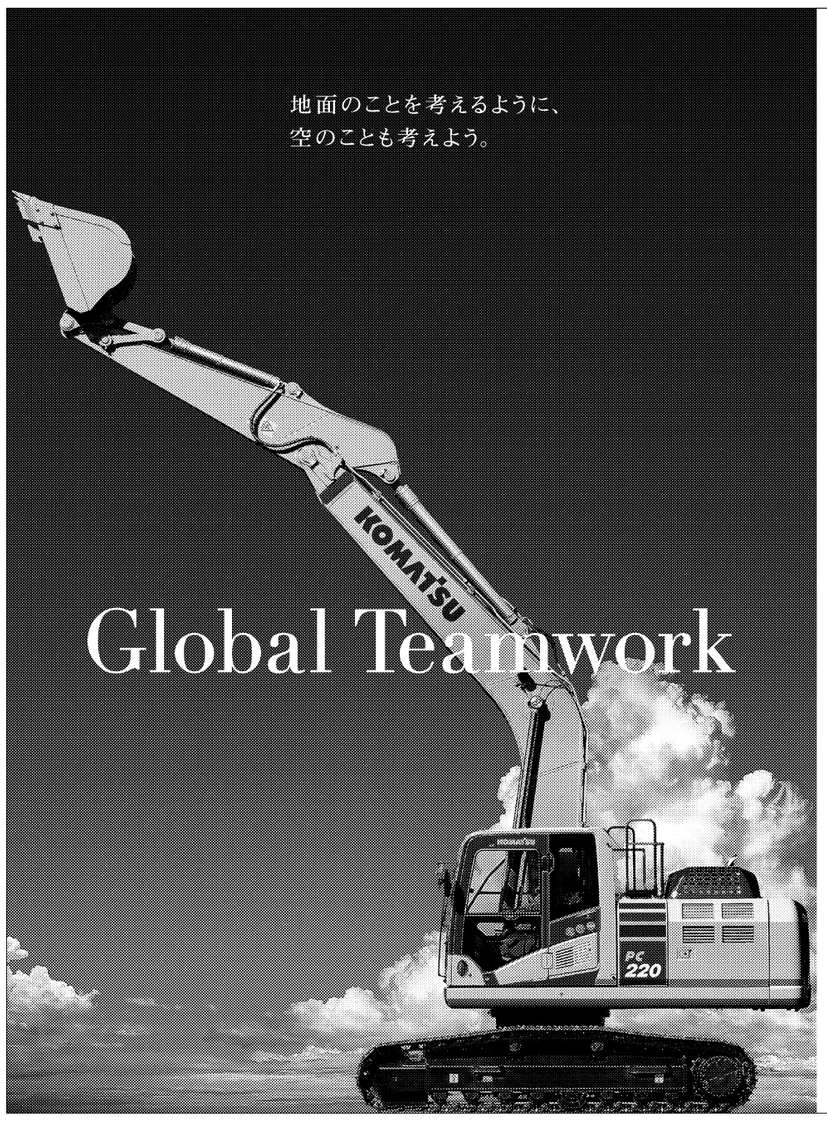
国土交通省 新技術情報提供システム NETIS 登録
省エネシステム「Gモード」搭載 クローラクレーン
登録番号:KT-120107-A

Mastertech G series
BM G series

The Power to Deal with Reality

	Max. Lifting Capacity
Mastertech 7050G	50t×3.8m
Mastertech 7070G	70t×4.0m
Mastertech 7090G	90t×4.3m
Mastertech 7120G	120t×5.0m
Mastertech 7200G	200t×5.0m
BM800G	80t×3.7m
BM1000G	100t×3.8m

コベルコクレーン株式会社
www.kobelco-cranes.com
東京本社／〒141-8626 東京都品川区東五反田2-17-1 Tel:03-5789-2130
北海道 Tel:011-788-2386／宮城 Tel:0223-24-1482
横浜 Tel:045-834-9992／北陸 Tel:076-682-6300
東海 Tel:052-603-1205／近畿 Tel:06-6414-2103
中国 Tel:082-810-3880／九州 Tel:092-503-3329



「日・米・欧
新排出ガス規制*」に
適合したコマツの
次世代建設機械、
誕生。

＊米国の"Tier4 Interim"、
欧州の"Stage Ⅲb"につづき、
日本では、オフロード法（特定特殊自動車排出ガスの
規制等に関する法律）2011年基準が
適用開始されます。

KOMATSU CARE

新サービスプログラム
「KOMATSU CARE」
（コマツ・ケア）
でサポート。

Global Teamwork
KOMATSU
コマツ
〒107-8414 東京都港区赤坂2-3-6
FAX 03-3505-9662 http://www.komatsu.co.jp

建設機械

未来・空間の創造を支える

建設機械は建築工事や災害復旧、環境問題の解決に取り組むなどして未来・空間の創造を支えている。こうした中、日本建設機械工業会（CEMA）は、建設機械の国内需要が震災復興関連、排出ガス規制の生産猶予の終了に伴う需要などで増加し、輸出の減少は底を打ち、緩やかに回復するとみている。

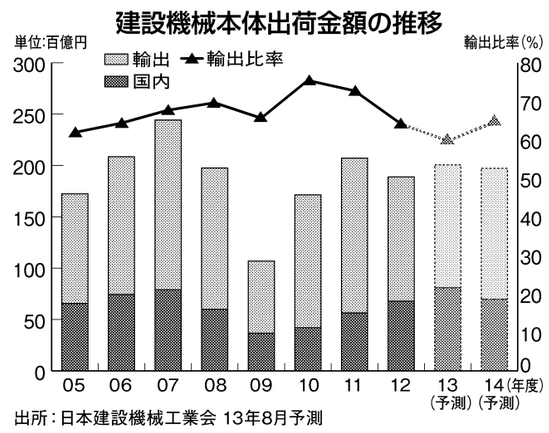
出荷金額13カ月ぶり増加

輸出も緩やかに回復へ

工事現場において、さまざまな建設機械が使われている。建築・解体工事では油圧ショベル、ミニショベル、建設用クレーン、基礎機械、油圧ブレーカ・圧砕機などが稼働している。このほか、トンネル機械、道路機械、コンクリート機械などが投入されている。

CEMAがまとめた13年8月の建設機械出荷金額は、前年同月比3・5%増の1706億6200万円となり、13カ月ぶりの増加となった。これを内需（国内）と外需（輸出）に分けてみると、国内は同18・6%増の704億7900万円となった。排ガス規制強化前の駆け込み需要が主因とみられる。輸出は同5%減の1001億8300万円となり、全体を押し下げた。その結果、国内は29カ月連続の増加、輸出は15カ月連続の減少となった。

輸出の地域別では中近東が同60・3%、アフリカが同0・9%増えたが、他の地域で減った。



出所：日本建設機械工業会 13年8月予測

一方で、アジアは同1・3%減、中国が同13・1%減と前年同月実績を下回ったが、マイナス幅が縮小した。

機種別にみると、国内はホイールローダーなどのトラクターが同33・3%増の61億6700万円、油圧ショベルが同40・2%増の2266億8200万円、ミニショベルが同14・7%増の64億7500万円、建設用クレーンが同17%増の106億5100万円だった。さらに道路機械が同13・5%増の24億4600万円、コンクリート機械が同5・6%増の19億2000万円、油圧ブレーカ・圧砕機が同19・9%増の11億2500万円、その他建設機械が同11・1%増の42億3100万円と10機種中、8機種が前年同月実績を上回った。補給部品も同5・3%増の85億8900万円となった。

輸出はトラクターが同4・7%増の163億9700万円、建設用クレーンが同25・4%増の80億5400万円、道路機械が同49・2%増の29億1200万円、さらに12年8月に実績のなかったトンネル機械が2400万円を出荷、合計4機種が増加。補給部品も同0・1%増の123億5000万円だった。他の6機種は減少した。

建設機械を含む特殊自動車の排出ガス規制では、06年4月に「特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律（いわゆるオフロード法）」が施行。これに伴い、従来規制されていた公道を走行するオンロード特殊自動車に加えて、規制対象が公道を走らないオフロード特殊自動車へと拡大されるとともに、その後も11年および14年と一定の経過措置期間を経て、規制内容が段階的に強化されることになっている。

建設機械の製造では、主力機種が含まれるエンジン定格出力75キロワット以上130キロワット未満（D4）と56キロワット以上75キロワット未満（D3）クラスの11年排出ガス規制の生産猶予がそれぞれ13年10月31日、14年3月31日に終了する。これを受けて需要の変化が見込まれている。

CEMAが13年8月にまとめた13、14年度の補給部品を除く建設機械本体出荷金額予測によると、13年度は前年度比6%増の2兆55億円、14年度は13年度比2%減の1兆9710億円になるとみている。

国内は13年度が震災復興による需要の増加に加えて、エンジン定格出力D4・D3クラスの11年排出ガス規制の生産猶予の終了に伴う旧型機の需要がレンタル業界を中心に見込まれる。このため、上期は出荷金額が1550億円となる油圧ショベルの前年同期比33%増をはじめ9機種が増加。下期は上期の理由と不透明ながら消費税率上げ前の駆け込み需要が予測され、全10機種が増加すると予測。この結果、13年度全体では前年度比19%増の8082億円で、4年連続して増加するとみている。14年度全体では13年度の反動減などが予想されることから同14%減の6978億円で、5年ぶりに減少すると予測している。

輸出は13年度が北米向けの需要が堅調に推移するものの、資源開発国向けや、アジア、欧州向けが減少。上期では出荷金額が2752億円となる油圧ショベルの前年同期比12%減を筆頭に、6機種が減少すると予測。下期はアジア向けの需要などが回復して7機種が増加。13年度全体では前年度比1%減の1兆1973億円を予測している。14年度全体では全地域的に緩やかに回復し、同6%増の1兆2732億円となり、3年ぶりに増加すると見込んでいる。

排出ガス規制スケジュール

エンジン定格出力	06年度－10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度
D3（56キロワット以上75キロワット未満）	06年規制（08年10月1日～）	11年規制（新車）（12年10月1日～15年9月30日）				次期規制
		経過措置18カ月（～14年3月31日）				
D4（75キロワット以上130キロワット未満）	06年規制（07年10月1日～）	11年規制（新車）（12年10月1日～15年9月30日）				次期規制
		経過措置13カ月（～13年10月31日）				
D5（130キロワット以上560キロワット未満）	06年規制（06年10月1日～）	11年規制（新車）（11年10月1日～14年9月30日）			次期規制	
		経過措置18カ月（～13年3月31日）				

・D3以上を抜粋。